

に変更しているの、現在のものでは不具合であるから仕様変更方を研究中。

暖房主管からの放散熱量は蒸気圧と外気温とに左右される。
実際には正規の車両用保温帯以外のフェルトを代用する場合が多々ある。

4 冷蔵車用保冷板 輸入コルクでつくった炭化コルク板が長年標準とされてきたが、現在はアルセルボードが全面的に使用されている。

戦後新車製作の際は炭化コルク板が入手難であったため代用材が使用された。昭和22年レ5000および6000形式には岩綿壁材、岩綿フトン、麻フェルト、テックス板、杉皮板、炭化とコルク(アベマキ樹皮)板が使用され、試験の結果、1位テックス板、下位炭化とコルク板となった。炭化とコルク板の製造は経験が浅いので、製作指導を行って昭和23のレキ1形式にテックス板とともに使用、和コルク板は上位となった。昭和24年のレ7000形式は和コルク板でつくられた。この間に岩綿保冷板が完成し、泡ガラス板も生れ、アルミ箱保温方法もふたたび使用可能となったので、昭和25年の新設計になるレ10000形式には、アルミ箱シワ付け、アルセルボード(わくのふみ)、炭化とコルク板、岩綿保冷板、泡ガラス板等が採用され、保冷板選択のコンクールのような感を呈するに至った。試験の結果はアルセルボードが1位を占めた。このころから軽量化が問題となり、岩綿保冷板も軽くなり、昭和28年には岩綿保冷板とアルセルボード(包装品)が使用された。

しかし岩綿保冷板は車の自重でアルセルボードよりも約1t重く、価格も高いので、昭和29年度のレ12000形式以降はアルセルボードが冷蔵車用保冷板としての決定版となっている。

アルセルボードは、図-3に見るような、杉板わくの中に0.02mm厚のアルミ箔を波形に折り、9mm当り1枚の割で金属接触しないようにそう入し、両面にはダンボールをあてて板状としたもので、板の表全面にアスハルトを塗布し、さらにアスハルトルーヒングで完全に包装し防水を行ってある。熱伝導率はアルミ箔のそう入枚数によって異なるが、側壁床等に用うる120mm厚の場合、0.045 kcal/mh°C以下、かさ比重は包装を含めて80kg/m³前後である。(中川政雄)

しゃりょうりれきびょう 車両履歴票
車両(貨車を除く)の修繕・改造などの経過を記録した票。動力車には機関車履歴簿取扱手続・電車履歴簿および履歴票取扱手続・気動車履歴簿取扱手続などの内部達によって各車両ごとに履歴簿を備え、形式・寸法・重量・装置・設備・移動・修繕・改造・検査・経過年月および運転キロ・故障および習性・調査および試験などにわたって記録保管することになっているが、これらの要点だけを票と

したもの履歴票という。また客車のように履歴簿の制定がないものも、その状態経歴などを記録するために履歴票を設けているものもあるが、これは便宜上のものであるから各所で適宜な様式を定めている。

履歴簿および履歴票は車両の受持区で保管整理し、その車両が入場中は工場で保管し必要事項を記入する。

履歴簿は気動車のように機関部分だけ車体から切り離して循環修繕されるものは、車体履歴簿と機関履歴簿と別個に備えている。(土岐実光)

しゃりょうえいていこう 砂利漏洩抵抗 (英)ballast leakage resistance 軌道回路定数のうち両軌条間に分布されている抵抗。

これはつぎの部分から構成されている。

- ① 枕(まくら)木の表面抵抗
- ② 枕木の材質中の抵抗
- ③ 砂利・泥土等の部分の抵抗
- ④ 軌条と枕木・砂利および泥土等との接触抵抗

したがって枕木の材質および状態・砂利の種類およびその状態によっていちじるしく異なる。したがって天候によって相当変化するものである。一般に軌道回路の長さ1km当りの抵抗をもって表わし、一般的には数オームないし数十オームと考えられる。特殊な場合として隧道(づいどう)の中等で0.2~0.5オームというような場合がある。(柏木 実)

しゃりんしゅうぜん 車輪修繕 車輪は車軸・輪心およびタイヤの3部分からなり、電気機関車や電動車用のものはさらに大歯車が車軸に取付けられている。

これらの各部は使用に伴って次第に摩耗・変形し材料的にも疲労を来して次第に強度を失う。すなわちフランジ部には直

タイヤの厚さと摩耗限度表

	外輪符号	使用箇所	制輪子作用の有無	外輪取付装置	工場修繕限度	使用限度
外輪	T	機関車動輪	—	—	35mm	32mm
		電動車動輪	—	—	33	30
	TP	機関車先従輪および炭水車車輪	作用するもの 作用せざるもの	ストラウドレー式 前記以外のもの	35 28	32 25
				ストラウドレー式 前記以外のもの	34 27	32 25
厚さ	TW	客貨車車輪	使用するもの ただし車側制動機のみ作用するものを除く	基本形・キブソン式・セットスクルー式 マンセル式 ストラウドレー式	24 27 30	21 24 28
			作用せざるもの もしくは車側制動機のみ作用するもの	基本形・キブソン式・セットスクルー式 マンセル式 ストラウドレー式	23 26 29	21 24 27
		機関車先従輪および炭水車車輪	作用するもの	—	28	25
			作用せざるもの	—	27	25
		気動車動輪	—	—	28	25
		特殊小型機関車動輪	—	—	25	22
		車輪一對の中心線より輪縁外側面に至る距離			520	516

注意 1 外輪の厚さは車輪一對の中心線より左右各560mmの距離における踏面においてはかり、また車輪一對の中心線より輪縁外側面に至る距離はその踏面より10mmの下位においてははかるものとする。
2 車両の構造上本表の限度まで使用すべからざるものにあつては、限度を本表のものより大とするものとする。